お母さんにやさしくしてもらった時
しあわせって感じる
2008/3/26
37

しあわせって・・・
勉強できること

しあわせって
運動できること
2008/3/26
38

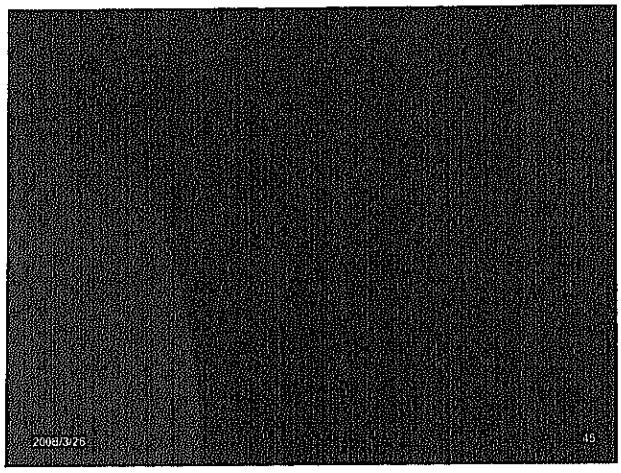
ほめられることぼくはほめられた時、しあわせって感じる

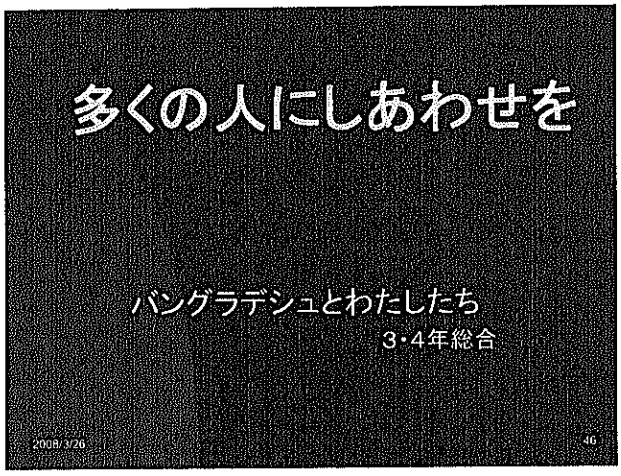
笑顔でニコニコ笑っていられること
そして、夢を見られること

しあわせって
自分にできることがあること

しあわせって
友だちとあそぶこと

ぼくにとってしあわせって
うれしいこと


2008/3/26
45


多くの人にしあわせを
バングラデシュとわたしたち
3・4年総合
2008/3/26
46

タイトル(テーマ)　地球の輪をつなげよう

氏名　竹田 朋彦　福島県市立松川小学校

実践教科　総合的な学習の時間・社会科・道徳　時間数　14時間

対象生徒・学年　小学校6年生　対象人数　31名

(1)カリキュラム案

① 実践の目的

本学級の児童は、学年の国際理解学習の計画に沿って、これまでにALTによる英語活動を毎学期定期的に行ってきている。また、外国人講師を招いての異文化学習や異文化模擬体験バーンガなどを行ったり、様々な国やその出身の方々との交流体験したりしてコミュニケーションスキルについても学んできた。外国の文化についての子ども達の関心は概ね高いものの、その対象の多くは英語圏、しかもアメリカやイギリスなど限定された国である。先進国以外の開発途上国やアジア各国についてはほとんど情報をもっていない。そのため学級内にフィリピン出身児童がいても外見的な特徴以外に外国出身者を意識することが少ないようである。一方で学級内の児童の中には英語学習塾に通っている子が数名いたり、世界地図を好んで眺めたりする子も見られる。

本単元は、本校国際理解教育計画の重点事項である「広い視野で自国の文化や他国の文化を理解し尊重するとともに、異なる文化を持った人々と進んでふれ合い、コミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。」とのかかわりで異文化への理解を深め、国際的な視野を広げていくことを主なねらいとしている。子ども達にとってあまり予備知識のない開発途上国の様子や日本の国際協力への実態をつかみ、外国や外国出身者に対する認識に幅を持たせると共に、社会科の未習事項「世界の平和と日本の役割」での国際的な活動やその機関についての学習への関連で海外支援などの様子をつかんでいくことをねらいとする。また、学習の過程において他者との関わりを多く設定することで、コミュニケーション力の高まりも期待できる単元である。

単元の指導にあたっては、まず世界的な人口、貧富、環境、ジェンダーなどの様々な課題を「世界がもし100人の村だったら」のワークショップからつかませていく。主立った統計資料から世界の課題を体験的に捉えた後、援助の是非と被援助者の将来の問題や貧富と幸福感の関係についての話し合いを、教師のバングラデシュの研修時の体験談をもとに進めることで共感的に問題意識を高めさせる。開発途上国を捉えていく上での切り口としてバングラデシュの衣服や調味料、教科書をモノランゲージとして提示し、自由な発想で友達と予想をさせ考えていくことで異文化への興味と自分の中の文化との差異に気づけるようにする。パワーポイントで国際協力の手がかりを示し、子ども達の学習問題を国際協力団体の活動などに集約していく。そこから教師が資料吟味をして子どもに提示することで追究活動をサポートし、グループでの共同作業を

通して内容を整理し、発表の準備をさせていく。調べたことから、自分なりの今後の生活での国際協力へのかかわり方を考え、松っ子フェスティバルで学習の成果と課題を共有し、今後の生活へ生かしていけるように励ましていきたい。

② 授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1～2 時限目(総合) テーマ:世界がもし100人の村だったら～ワークショップ～ ねらい:世界の現状の一端を体験し，世界へ関心を高める	1. アイスブレーキング 2. 100人村クイズ 3. 世界を模擬体験(人口・人種・言葉・富など) 4. 地球の輪 5. 活動のふり返り	100人村シート、役割カード
3 時限目(総合) テーマ:100人の村をふり返ろう ねらい:統計を詳細に読み取り，お金の使い道を考える	1. 100人村の読み合わせ 2. 統計の確認(男女比・人口比・年齢比・富の格差・使用言語など) 3. ワークショップの感想の交流 4. 問題提起～お金を恵むべきなのか？～	100人村シート
4 時限目(道徳) テーマ:貧しさと豊かさ、幸せなのはどちら？ ねらい:お互いのイメージを出し合い，幸せの意味について考える	1. イメージマップづくり(貧しさ・豊かさ) 2. 貧しさと豊かさのちがいを考える 3. 幸せの捉え方について話し合う	イメージマップ
5 時限目　本時(社会) テーマ:バングラデシュってどんな国？ ねらい:開発途上国の一例として資料を観察し，日本とのかかわりについて知る。	1. ベンガル語でのあいさつ 2. モノランゲージによるクイズ 3. クイズの解説と文化紹介 4. パワーポイントで衣食住と学校の様子、日本の国際協力のかかわりを概観する。 5. 国際協力への学習問題をもつ。	バングラデシュの国旗、地図、バングラ生活用品、パワーポイント
6～8 時限目(社会) テーマ:世界の笑顔のために ねらい:日本の国際協力がどのように行われているか考え、個々に調べていくめあてを持つ。	1. 個々の興味や関心別に追究課題を絞り込む。(バングラデシュの文化、JICAとNGOの活動、ユニセフの活動) 2. 大きく3つのグループごとにテーマを持って、分担しながら調べ学習を進める。	ダッカ日本人学校資料集、JICA学校に行きたいリーフレットなど
9～12 時限目(総合) テーマ:自分たちに出来ることを考えよう ねらい:自分たちのグループで調べ	1. 調べて分かったことをふまえ、今の自分に出来ることは何か考え話し合う。 2. 調べた成果を松っ子フェスティバルでアピールするために発表の準備をする。	JICAホームページ「地球調査隊」

たことを共有し合い，発表意欲を高める	（ポスターやジオラマ・衣装・紙芝居・クイズ・体験活動など）	
13～14時限目（総合） テーマ：松っ子フェスティバルで発表しよう ねらい：国際協力の様子や自分たちとのかかわりについての意見を表現し合い，生活を見つめ直す	1．ポスターセッションやワークショップなどの表現活動 2．お互いの学習の成果の共有とふり返り	地球家族 写真他

(2)授業の詳細

第6学年1組総合的な学習の時間活動案

1．単元名　「地球の輪をつなげよう」

2．単元の目標

○ 世界の現状を表す統計や資料から、自ら課題をもって進んで調べたり体験活動をしたり、まとめていったりすることができる。　【関心・意欲・態度】

○ テーマについて友達と情報を交換し、話し合いの中で共通する課題を見つけ、体験を通して自分が追究したい課題をもつことができる。　【課題設定力】

○ 学習のまとめ方まで見通して、自分なりに問題の解決方法を考えたり、図書資料やインターネットなどで資料を収集したりして課題を追究し、解決していくことができる。　【課題追究力】

○ 学習の課題を解決していくために、テーマと関わりのある方々や友達と積極的に関わって、学びを深めていくことができる。　【人間関係力】

○ 開発途上国の現状や、日本との関わり、国際協力の実際について調べたことや考えたことを分かりやすくまとめ、資料や情報機器を使って効果的に表現することができる。　【表現力】

3．本時のねらい

○ 開発途上国の事例として、バングラデシュの生活の様子を具体物資料や写真資料からつかみ、そこに関わっている日本のJICAの存在や青年海外協力隊の活動に興味や関心をもつとともに、単元の学習の見通しをもつことができる。

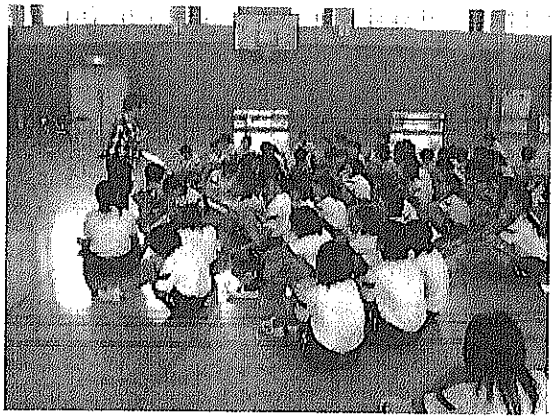
4. 学習過程

学習活動・内容	時間	活動上の留意点
1. 本時の学習のめあてをもち、学習の見通しを立てる。 ○バングラデシュのあいさつを聞き、会話文の意味を考える。 バングラデシュってどんな国なのかな？	10	○ 教師が民族衣装で現れ、ベンガル語で一方的に自己紹介を行い、名前を尋ねる問いかけを数名に行うことで、異文化への実感をつかませ、学習内容への興味関心を高める。 ○ 大まかなバングラデシュの地理を紹介し、子ども達のイメージを共有させる発問をする。
2. バングラデシュの生活用品の用途を考える。 ・ ルンギ、チャー、ノクシカタ 布袋、教科書、ターメリック	15	○ バングラデシュの生活用品の具体物を提示し、モノランゲージを行い、子ども同士で検討していく場を設定する。 ○ ワークシートを配付し、クイズ形式として友達同士で自由に話し合いながら予想を記入させる。またその用途も考えさせ、日本の生活と比較できるように助言する。
3. スライドからバングラデシュの生活の様子を考える。	15	○ バングラデシュの市場や自然、町並み、学校の子ども達の姿などをパワーポイントで紹介する。簡単な解説を加えていくことで、バングラデシュの文化の概要の一部を知り、日本の生活を客観的に捉え、日本との共通点や相違点を考えるよう配慮する。
4. 学習のまとめと学習問題の共有をする。 JICAやNGOはどんな活動をしているのか？	5	○ スライドの写真の後半にJICAのロゴなどが分かる大型機械や車両を紹介し、日本が国際協力でバングラデシュに経済面でも技術協力面でも関わりがあることに気づかせ、国際協力についての学習問題を共有できるようにする。 ○ ゲストティーチャーとしてJICAの国際協力推進員の方のお話を全体で聞く場を設け、青年に海外協力隊の活動やNGO活動についての概略を知り、さらなる追究意欲を高めていくようにする。

授業実践の実際

第1時～第2時「世界がもし100人の村だったら」

◇ 「世界がもし100人の村だったら」に描かれた世界の現実を、シミュレーション(疑似体験)という参加型の方法で体験する場を設定していった。世界には多様な言語や文化を持つ人々が住んでいること、そこには大きな貧富の格差があることを体験的に学び、日本を自分たちのくらしを客観視していく中で問題意識を高めていくことをねらっていった。



第3時「100人の村をふり返ろう」

◇ 学級でもう一度100人村のフレーズの読み合わせをし、内容の読み取りを深めていった。改めて、百分率の意味を学級全体で確認していくことで、世界の現状への共有を深めていくことができた。

◇ 統計の意味の確認

男女比・・・48%が男性、52%が女性

人口比・・・61%アジア人、13%アフリカ人、13%南北アメリカ人、
12%ヨーロッパ人、あとは南太平洋の人達

年齢比・・・30%子ども、70%大人(うち7%が老人)

富の格差・・・6%が富の59%をもち全てアメリカ人

使用言語・・・17%中国語、9%英語、8%ヒンディー語とウルドゥー語、6%スペイン語、6%ロシア語、4%アラビア語、あとはベンガル語、ポルトガル語、インドネシア語、
日本語、ドイツ語、フランス語など

◇ 問題提起～援助の是非についての価値葛藤の場づくり～

T:先生はバングラデシュでマーケットに行ったときに、裸足でほとんど裸同然の7歳くらいの男の子にずっと服を引っ張られて「ボス、マネー。ワンダラープリーズ」と物乞いをされ続けました。1ドルは日本で120円くらいです。

T:さて問題。みんなだったらお金をあげますか？

C:えー。だって日本円で120円くらい普通はもってるよね。

C:ずっとついてこられるんじゃあげちゃった方がいいかな。

C:1ドルで何が買えるんだろう。

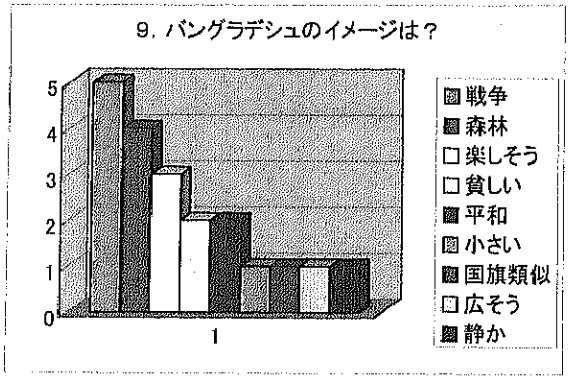
C:もっと子どもが出てきたら、もっと欲しがったらどうする？

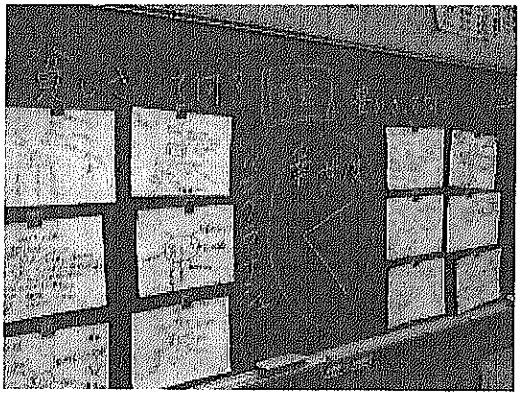
《お金をあげる派29人》		《お金あげない派2人》
C：困っていてかわいそう		C：あげることは簡単
C：少しあげても自分が困るほどではないから大丈夫	VS	C：あげてもきりがない
C：ほおっておけない		C：同じような貧しい子はきっとたくさんいるだろう

T：なるほどね。かわいそうという意見があったけど、お金をあげたらかわいそうじゃないのだろうか。かわいそうってどういうことなんだろう。物乞いをする小さい子どもは、きっと学校に行けないのでしょう。学校に行けないで大人になった子どもは、きっと仕事もなかなかないでしょう。ということは一生物乞いをしていかなければならないかもしれません。

T：ちなみに先生は・・・1ドルではなく、2TK（4円）だけを最後に渡しました。今でもどうすれば良かったのか先生自身も悩んでいるところです。

第4時「貧しさと豊かさ、幸せなのはどちら？」





◇ 事前アンケートを元にしての、話し合いとイメージマップ作成

T：貧しさ、豊かさってどんなことなんだろう。その言葉から思いつく言葉をつないでグループでマップを作ろう。

T：バングラデシュは貧しい・豊かのどちらだろうか？

C：それはやっぱり、貧しい方。お金がないんだから。

T：貧しいか豊かかはお金で決まるのかな？では、幸せかどうかはどうだろう？みんなお金が豊かな方だと思う？

T：かわいそうって自分で思っていないのに、相手から言われたらどう感じるかな？

C：それは・・・決めつけられたら嫌だと思う。

T：みんな貧しいとかかわいそうとかバングラデシュを決めつけていないでしょうか？バングラデシュの国の人達はとっても明るくて、自分たちが世界で最も幸せだと思っているそうです。

C：日本は、物がたくさんあるけど、みんな幸せって思っているとも限らないかな。

T：国が違うと、幸せの感じ方や考え方も人によって変わるのかも知れないね。次はいよいよ先生が夏休みに研修で行ってきたバングラデシュについて紹介していくね。

第5時「バングラデシュってどんな国？」…本時（自由参観日）

◇　まず教室に入って日本語を使わずにいきなりベンガル語のみのあいさつをしていった。衣装はバングラ成人男性の衣装パンジャビスーツとつばなし帽子のトゥピ。

C：ええっ。先生は何を言ってるのかな？

C：何語なのそれ？

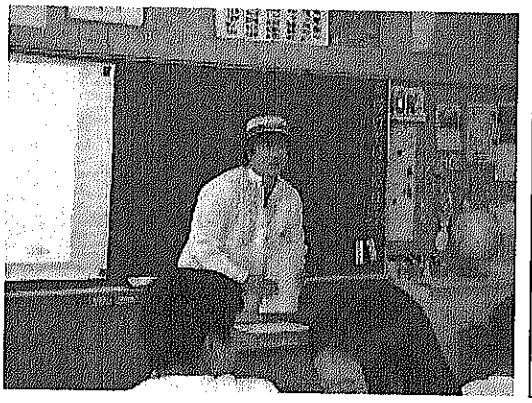
T：アプナールナムキー？

C：キーってなんだ？

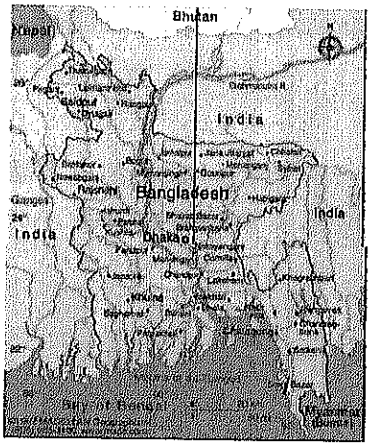
T：アマンナン　タケッチ

C：名前か何か聞いてるのかな。たぶん。

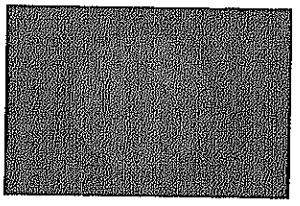
C：ハロー。サンキュー。OK。



アッサラームアライクム　ケモナチョ？
アマンナン　タケッチ　アミジャパネールプライマリーイスクールシーコック
アプナルナムキー？



【バングラデシュの地図や国旗を提示しながら説明する】



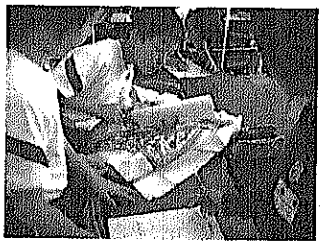
T：何となく分かった人もいたようだね。先生は名前を聞いてたんだよ。あと、アッサラームアライクムというのは「おはよう」と「こんにちは」と「こんばんは」 の全部のあいさつの言い方なんだよ。べんりでしょう。

T：今日はバングラデシュという日本から飛行機で合わせて10　時間以上かかるインドに囲まれた国について紹介するね。

◇　バングラデシュの生活用品をグループで観察しながらモノランゲージをさせていった。考えた予想などをワークシートにメモさせていった。

～児童に提示した具体物資料～

- ○　ルンギ（男性用スカートで労働者が主に着用）
- ○　チャー（シナモン入りミルクティー、とても甘い）
- ○　ノクシカタ（民芸品の刺繍で主に女性が支えている）
- ○　ターメリック（トルカリの主なスパイス原料・うこん）
- ○　教科書（ベンガル語の国語の教科書、有料で高価）
- ○　布袋（レジ袋は排水溝に詰まり都市洪水になるのでポリ袋が全面禁止となっている。またジュートも有名）



C：何の絵がししゅうになっているのかな。テーブルクロスにするんじゃない。

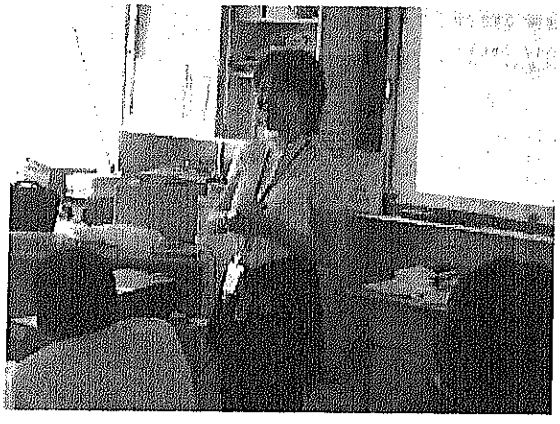
C：これは何だろう？うーんスパイス。そうだ、きっと。カレーとかに使うやつかな。

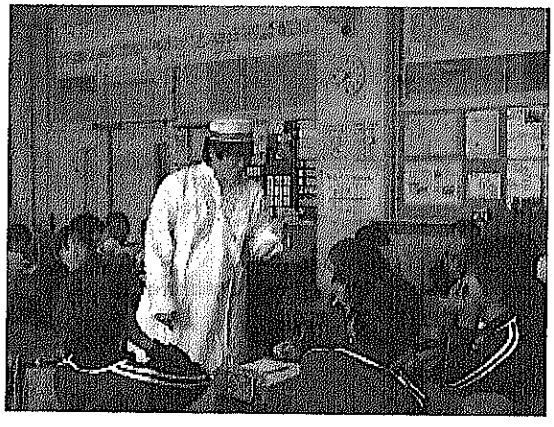
◇　パワーポイントでバングラデシュの生活の様子を自分たちの生活などと比べながらつかませていった。さ

らに、意図的に日本のODAやJICAのマークがダッカ市役所や大型機械、自動車などに記されていることに気づかせ、生活環境が異なるバングラデシュで日本はどのようにかかわっているのか、国際協力とはどういう事なのかという点に着目させていった。

T：この子は何をしているのでしょうか？
C：何か拾っているのかな。
C：なんか怖い顔してるね。
C：これはどこなんだろう。
T：これはごみ処理場です。
T：この女の子は大体7歳くらいかな。学校に行かずに一人で毎日このごみ処理場へ歩いてくる。そして、お金になりそうなごみを拾って売ることで生活しているんだよ。
C：子どもでもお金をかせがなくちゃならないのかあ。
T：バングラデシュには日本のJICAのロゴが大型機械や自動車にありました。日本がかかわって、仕事をしているんですね。となりの二本松市にJICA訓練所があるんだよ。

◇ JICA青年海外協力隊パラグアイOV（福島県国際協力推進員）をゲストティーチャーにお招きしてお話をうかがっていくことができた。実際に青年海外協力隊員だった方のお話を聞き、また隣の市にJICAの訓練所があることに、子ども達は大変関心を高めていった。





T：JICAは国の予算。NGO はボランティアで国際協力をしている団体なんだね。
C：どんな仕事をしているの？NGOってどこで活動しているの。どんな団体があるのかな。
C：その他に、国際協力をしている団体はあるのかな？

単元の学習のめあて　JICAやNGO，ユニセフなどの国際協力の様子を調べていこう。

T：もちろん、他の先進国も国際協力をしているし、NGOもたくさんある。JICA以外にはユニセフなども世界的に活動しているね。次はそれらの国際協力の活動を調べていきましょう。

第6時～第8時「世界の笑顔のために」

◇ 児童の興味や関心別にグループ分けをして、各種資料（ダッカ日本人学校資料集・JICAとユニセフパンフレット等）やインターネットなどで調べ学習を進めていった。

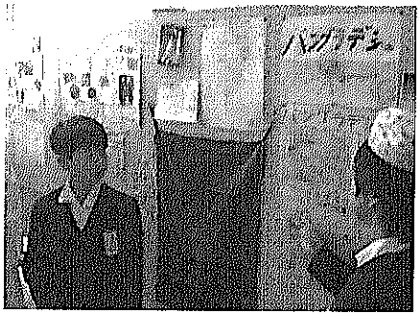
◎ バングラデシュについて・・・衣食住、生活や学校の様子
◎ JICAやNGOについて・・・仕事の様子、願いなど
（フィリピンの文化・生活、JICAとのかかわり含む）
◎ ユニセフについて・・・活動の様子、歴史や実績など

第9時～第12時「自分たちにできることを考えよう」

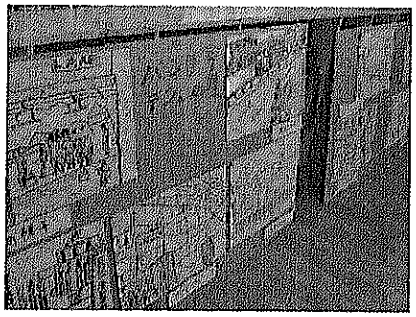
◇ 調べて考えた平和への自分たちの願いをピカソの ゲルニカになぞらえて表現した。全員で一つの作品に仕上げる予定だったが、時間がなく個人作品を当日展示することとなった。
◇ 自分たちにできることについて話し合い、発表の準備を進めていった。グループで友達と協力し合い活動する様子が伺えた。

第13時～第14時「松っ子フェスティバル」

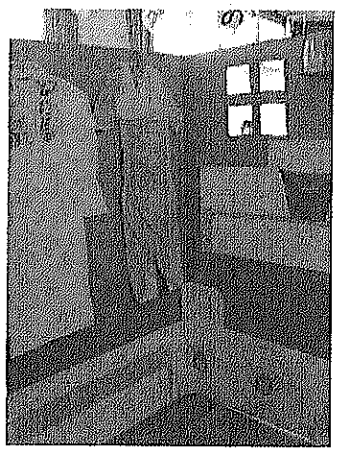
① バングラデシュグループ



【バングラ基本情報発表】



【町や村の様子の絵】

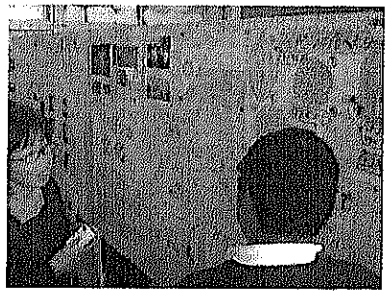


【家の中を再現！】

② JICA＆NGOグループ（フィリピンの発表を含む）

【活動の違いと様子について】

【学校に行けない子どもの状況の紙芝居】



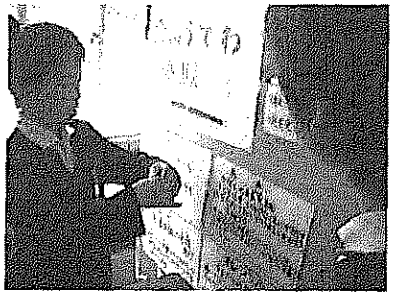
【フィリピン文化情報】

③ ユニセフグループ

◇ ユニセフグループは体験コーナーと発表を平行して行った。

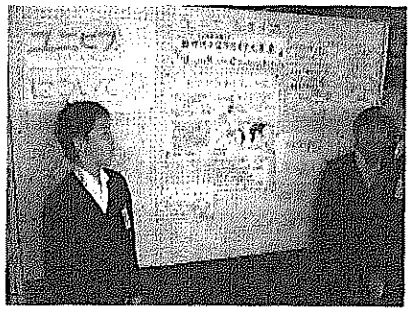
① 水くみ体験コーナー・・・遠くまで歩いて水を運ぶ子ども達の仕事を実際の重さで体験しよう！（20キログラム）

② 命の腕輪・・・栄養失調の子どもの腕の細さを比べてみよう！

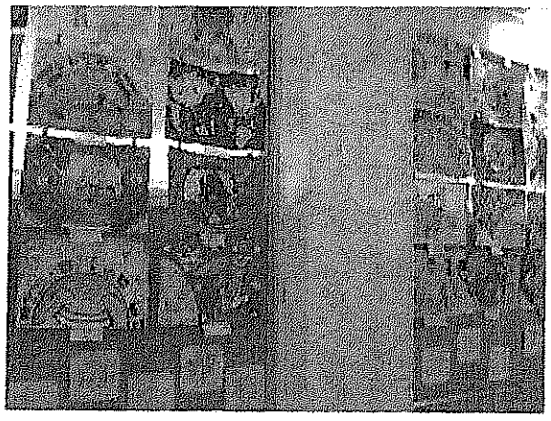


【命のうでわ体験コーナー】

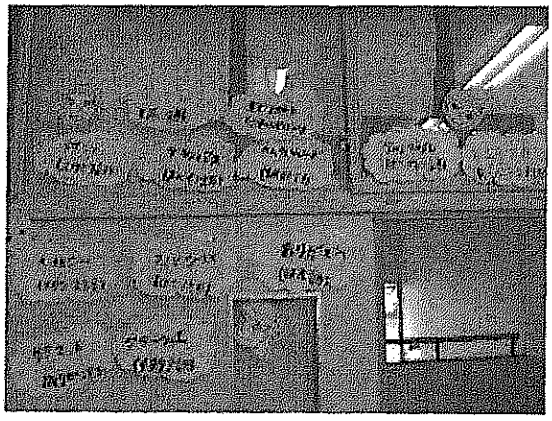
【水くみ体験コーナー】



【ユニセフ活動の紹介】



【キッズゲルニカ(平和への願い)の個人作品】



【出入り口は多言語あいさつで！】

実践の成果と課題

○ 保護者自由参観の中で国際理解授業を行ったこと、学校行事の松っ子フェスティバルで国際協力の発表をポスターセッションやワークショップ形式で児童主体に企画運営を進めてきたことは大変有意義だった。他学年及び他学級の保護者へも国際理解学習の成果を広めることができた。子ども達の問題意識や興味を高める上で、教師自身の実体験(教師海外研修での)や具体物教材の提示、JICAゲストティーチャーの具体的な話などは大いに有効であった。

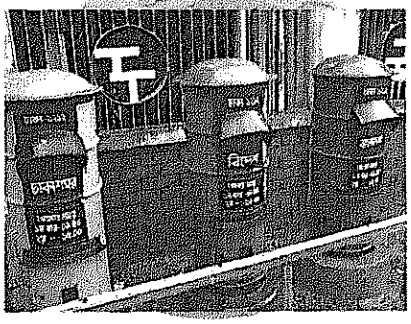
● 総合的な学習の時間だけでなく、関連する教科の活動を盛り込みすぎて、子ども達に十分な課題追究や体験活動のための時間を保障することができなかった点が反省される。ねらいを明確にした短い単元で、十分に系統性連続性を考慮した年間計画を作成していく必要がある。

バングラデシュってどんな国？

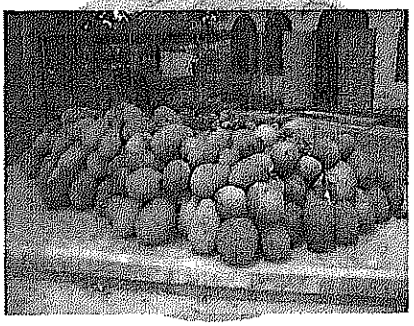
～地球の輪をつなげよう～

どこが似てる？どこがちがう？
どんなことができるのかな？

バングラデシュのポスト



ジャックフルーツです



夕食はトルカリやカレーピラフ

街角のサトウキビジュース

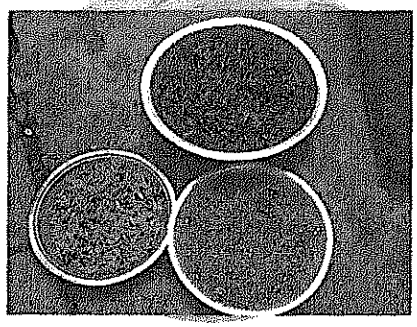
市場に並ぶ野菜

町を走るリキシャ

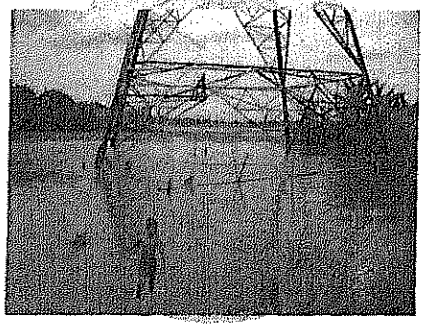
ヤギさん達が・・・・

こうなります(^_^;)

みんなが毎日食べるカレースパイス

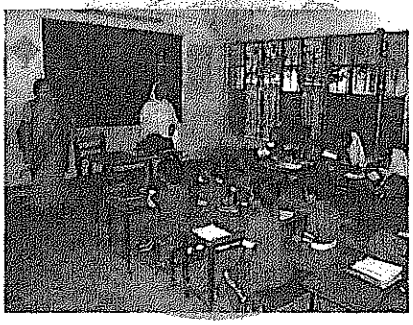


洪水で水びたし・・・でも元気



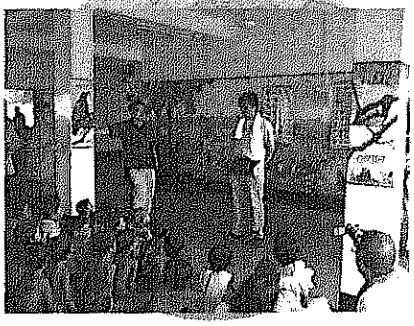
夜の町の子ども達

公立小学校でお勉強です



NGOの作った学校です

ドロップインセンター



青空教室

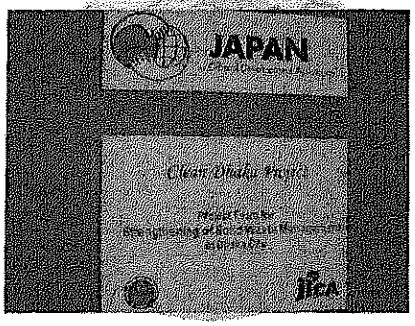
この子は何をしているのでしょう

ウェストピッカー（ムスリムちゃん）

ゴミがたくさん(ゴミ処理場で)

これは何でしょう？

なんと書いてあるでしょう？



このマークは何でしょう？

バングラデシュの子ども達

何ができる？何をしている？

日本にたまたま住んでいるぼくたち
バングラデシュにたまたま住んでいるかれら

何がちがうのでしょう？
どうしてちがうのでしょう？

わたしたちには、どんなことができるでしょう？
国をこえて力になろうとすること、それが国際協力です。

タイトル(テーマ)「 世界を知り、自分と他とのわりを見つめ直す
～新しい単元開発と参加型学習の実践を通して～ 」

氏名 松本 大光　　福島市立 湯野小学校

実践教科 総合的な学習の時間　　時間数 8時間

対象生徒・学年 6年生　　対象人数 34名

(1) カリキュラム案

① 実践の目的

○ 教師海外研修を経てとらえた児童の実態

今回の教師海外研修を経て、私自身に対しても感じたことである。自由にモノを与えられ、資源や自然の恩恵、家族や友人等の周囲の温かさに対しても無頓着なっている児童。また、多くの情報があらゆるメディアを通して目や耳に入り、他との比較、他人との比較を行い、十分を十分と思えず、本当に大切なことを見失いがちになっている児童。本校の6年生(対象児童)は、地域性もあって大変素直で子どもらしいというのがおよその実態ではある。しかし、一方で相手の気持ちを考えない軽はずみな言動をとったり、仲の良い友達以外とは必要以上にかかわらなかったりという児童も少なくない。

本校の教育課程において、6学年は1学期から総合的な学習の時間に、さまざまな外国人との交流活動を複数回にわたって行ってきている。そこでは、外国のいろいろな遊びを経験したり、文字や生活習慣、学校の生活についてインタビューをしたりして、他文化理解・異文化交流に重点をおいてきた。

○ 日々の実践の反省から

上述の活動(総合的な活動の時間)は、2年前に私自身が単元として計画し、今も本校で行われている。段階をふんだ外国の人々との直接的な交流、さまざまな文化や生活習慣を知り、何より児童は生き生きと活動してきた。

しかし、本当に児童は学んでいるのか、もっと教えるべき、考えさせるべきことがあるのではないか、国際理解教育のねらいとは何なのかの思いがあった。

○ 本実践の目的

以上の点をふまえ、本実践の目的を以下のようにした。

自分自身を見つめ直し、他(世界・家族・友達)との関わりを大切にする気持ちがもてるように、世界の現状や諸問題を理解できるようにする。

本校の教育課程に位置づけ、実態に合った単元を開発するとともに、実践を通してそれを検証していく。

② 実践にあたっての構想・方針

・ 教師海外研修メンバーで事前の打ち合わせ(勉強会)の機会をもち、収集した情報の整理、教材研究を進める。

・ 対象児童の担任による打ち合わせ(単元計画立案等)をもつとともに、国際理解教育についての考え方を共有する。

・ 理論研究、文献研究を行い、研修で得た情報、資料が実践に生かされるようにする。

③　指導計画の構成案

時限・段階	テーマ・ねらい	内容・方法	使用教材
1時限 世界の現状を知る ↓	テーマ:「世界をもう少しのぞいてみよう①」 ねらい:人口問題、資源の分配等の諸問題を含めた世界の現状について理解する。	(1) 世界の現状を疑似体験 • 役割カードを用い、世界の人口、男女比、年齢比、言語、資源の分布を理解 (2) バングラデシュの人々の写真観察	(1) 『新ワークショップ版　世界がもし 100 人の村だったら』 (2) 視察先の写真
2時限 バングラデシュを切り口に、豊かさと貧しさ・援助・自立について考える。	テーマ:「1つの国・バングラデシュをのぞいてみよう」 ねらい:写真からその国の生活を想像し、豊かさ、貧しさについて考える。	(1) フォトランゲージ • 各写真にタイトル • 写真から見える貧しい部分と豊かな部分についての話し合い	(1) 視察先の写真 (資料①)
3時限	テーマ:「バングラデシュのストリートチルドレン①」 ねらい:バングラデシュのストリートチルドレンについて理解する。	(1) フォトランゲージ • ストリートチルドレンの写真(2枚) (2) 「バングラデシュの小学生とストリートチルドレン、日本の小学生」のカードゲーム	(1) 自作教材 (研修先の写真 資料②) (2) 自作教材(資料③)
4時限	テーマ:「バングラデシュのストリートチルドレン②」 ねらい:ストリートチルドレンを支援している団体を知り、援助について考える。	(1) ストリートチルドレンになる経緯 • KJ法・発表 (2) 障をもつストリートチルドレンの紹介 (3) 支援団体の活動ビデオの視聴 (4) 援助についての話し合い	(1) ビデオ『ダッカのストリートチルドレン』 (2) 『障がいをもつストリートチルドレン』のホームページ
5時限	テーマ:「識字率とバングラデシュの女性①」 ねらい:字が読めないことがどんなことかを理解する。	(1) 識字ゲームで字を読めないことを体験 (2) バングラデシュの女性の立場の理解 • パワーポイントによる解説 (3) 貧困を脱出する方法の話し合い	(1) 『新ワークショップ版　世界がもし 100 人の村だったら』 (2) 馬場由佳子教諭作成パワーポイント (3) 自作教材カード (資料④)
6時限 ↓	テーマ:「バングラデシュの女性②」 ねらい:マイクロクレジットで自立したバングラデシュの女性の気持ちを理解する。	(1) ムハマド・ユヌス博士の考案した「マイクロクレジット」を理解 (2) シミュレーションゲーム (3) 女性たちの気持ちについての話し合い	(1) 馬場由佳子教諭作成パワーポイント (2) 馬場由佳子教諭作成のカード
7時限 世界の子どもたちの現状を知る。 ↓	テーマ:「世界をもう少しのぞいてみよう②」 ねらい:バングラデシュが抱える諸問題等が世界にはどれほど合うかを知り、"自分ができること"を考える。	(1) 世界の子どもたちの現状を理解 • パワーポイントのよる解説 (2) "わたしたちができること"の話し合い	(1) 『今、世界の子どもたちに起きていること』

8時限 自分を見つめ直す	テーマ:「本当の豊かさについて考えよう」 ねらい:本当の豊かさについて考える。	(1) “わたしたちにできること”の話し合い結果の発表 (2) 指導者の考えを聞く。 (3) 本当の豊かさについて	(1) わたしの大切なものランキングカード

(2) 授業の詳細

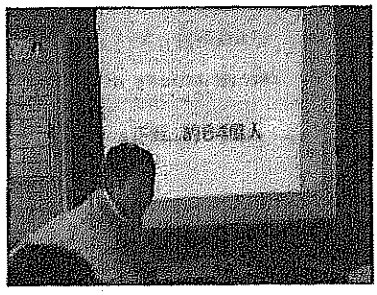
1時限「世界をもう少しのぞいてみよう①」

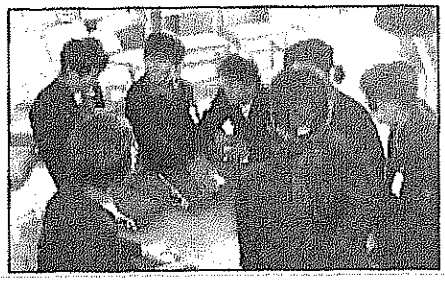
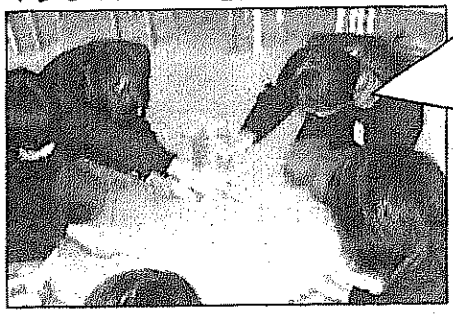
【日　時】平成19年11月15日(木)2校時

【ねらい】

○「世界がもし 100 人の村だったら(役割カード編)」の活動を通して、世界の現状を理解し、世界やその諸問題について関心を高められるようにする。

【授業の概要】

学習活動・内容・資料	○指導上の留意点　教師の発問(T)と[児童の反応(C)]
1. 学習の見通しをもつ 2.「世界がもし100人の村だったら」を体験する。 (1) 人口増加率 (2) 女性と男性の人口比 「なぜ女性は少ないの？」 ・パワーポイント活用 ・クイズ形式	○ 配付した(自分が引いた)役割カードの人物になりきって、教師の指示に従い、世界の現状を知ることを話す。 中国やアジアの一部では、女性の人口の方が少ないと言われています。なぜだと思いますか？  [児童の反応] C:どうしてだろう…？ C:昔は男がえらいみたいなところがあるって聞いたことがある。それかな…。 ○ バングラデシュと関係のある乳児死亡率にふれ、また、中国の一人っ子政策などを説明する。
(3) 大陸別人口分布 「大陸ごとに分かれよう！」 ・大陸ごとの面積比の枠	○ 人口密度の低い国から枠の中に入る。 ○ バングラデシュの人口密度も日本と比較して説明する。 アジアの人口密度はとても高い。どんな問題が生じると思いますか？ [児童の反応] C:なんか窮屈な感じ。 C:せまい。きつい。 C:けんかが起きると思う。 T:どんな時ですか？ C:食べ物とか物を分けるときに食べるときに…

(4) 世界の言葉 「世界の言葉で『こんにちは』」 ・カードのあいさつのみでグルーピング	○ 役割カードに書いてある同じあいさつの人を探し、座る。 ○ 同じ地域でも話されている言葉は異なること、少数言語は21世紀中に地球上から消滅危機であることを説明する。 
(5) 富の分配 「世界の資源は誰が？」 ・資源が豊かな国、中間層、貧しい国 ・ジュースを富(資源)に例え、グループ内で分配	○ 3人の教師のもった3つのマークそれぞれのところに集まる。 ○ 3つのグループの量を比較し、グループ同士で、またはグループ内でどんな問題が生じるかも考えさせる。 ○ 飲んだ後どんな気持ちがしたか数名に発表させる。 ↓少しのジュースを分けている様子  [児童の反応] C：え～、これだけ？隣の国ではあんなにたくさんのジュースがあるのに…。 C：あんなにあるなら、分けてくれたっていいのに。 (もっともジュースの多いグループに質問) 飲んでみた感想はどうですか？ [児童の反応] C：すごくラッキー！ C：コップで3杯も飲んでもまだ残っている。 C：はじめはやったぁと思ったけど、何だか悪いなという気持ちにもなってきた…。 C：分けてあげた方がいいのかなあと思いました。
3. 次時の見通しをもつ	○ バングラデシュの人々の様子を映し、この国が今日の模擬体験の中でどんな状況の国だったか(人口過密、富は少ない、乳児死亡率が低いなど)を簡単にふれる。

【児童の感想(ふり返りシートより)】

・貧しい人と裕福の人の差がとてもすごいことが分かりました。
・一番びっくりしたことはアジアが世界でもっとも人口が多いことです。しかも人口密度がすごかったです。
・一番少ないジュースをもらい、裕福な人はたくさん飲んでも余っているのを見て、うらやましいと思いました。
・自分のグループはジュースが少しだったけど、となりのグループはもっと少ないジュースを飲んでいるのを見て、少しでも飲めただけでもいいんだなと思いました。
・日本は裕福な方だけど、みんなで平等にしなくてはいけないと思いました。
・最後に見たバングラデシュの写真の顔がみんな笑顔でした。富も少ない、人口密度が高い国なのに不思議でした。どんな国か行ってみたいと思いました。
・私たちの国は、世界的にも豊かだけど、バングラデシュの写真の顔より笑っていないような気がしました。日本人は幸せなのかな？と思いました。

【考　察】

・それぞれの活動の中で、人口密度の高さ、言語の数、富がどのように分配されているかを体感できた。

・時折、その中で「日本はどこにあたると思う？」の問いで気づかせたり、バングラデシュの位置づけを示したりして、今後の学習と関連づけることができた。

・児童の感想をその場でもっと交流できるように、2時間扱い(90分)で実施したい。

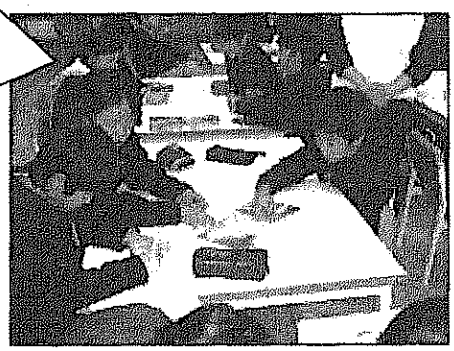
2時限「1つの国・バングラデシュをのぞいてみよう①」

【日　時】平成19年11月22日(木)5校時

【ねらい】

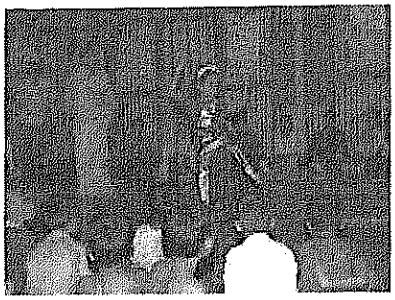
○　バングラデシュの写真から、その生活の様子等を想像し、貧しさや豊かさについて考える。

【授業の概要】

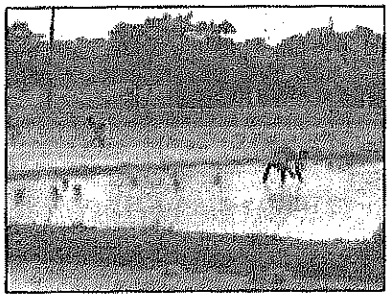
学習活動・内容・資料	○指導上の留意点　教師の働きかけ(T)と[児童の様子(C)]
1. 学習の見通しをもつ 2. フォトランゲージを行う。 (1)　やり方の説明 (2)　グループごとの話し合い ・　バングラデシュの生活の様子の写真(資料①)	○ グループごとに写真をよく観察し、日本とちがうところ、似ているところを出し合う。そして、写真に合うタイトルをつけることを説明する。 [児童の反応] (洪水の写真から) C：この鉄塔、水に沈んでいるよ。 C：子ども達が上っている。 C：なんか楽しんでいるみたい。 C：日本だったら怖くてできないよね。 

児童がつけた写真のタイトル

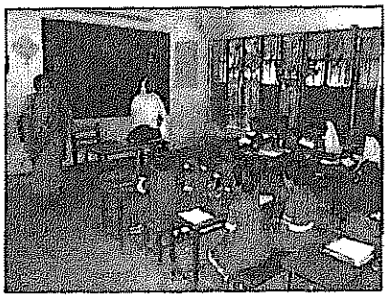
『にぎわう町　バングラデシュ!!』



『田んぼを耕すバングラデシュの人びと』



『ようこそ　バングラデシュへ！』



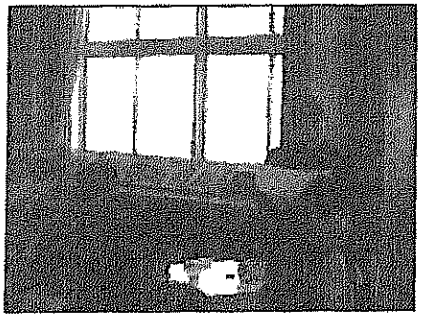
『バングラデシュは勉強中』

『バングラデシュの沼仕事』

『お金持ちのバングラデシュ』

3. 解説を聞き、バングラデシュの生活の様子を知る。

(1)　1つずつ写真の解説
(2)　各グループの解説



T:これから、写真の解説を読みます(写します)。自分のグループの写真だと思ったら手を挙げて、自分たちで話し合ったことを発表してください。

T:「バングラデシュの村では、テレビなどの娯楽があまりないため、国あるいは村の伝統の踊りや村芝居を…。」

C:はい！

T:写真をみんなに見せて、タイトルも言ってください。

C:(他の児童に見せ)『ようこそ、バングラデシュへ！』です。

T:どうしてそう思いましたか？

C:写真の女の子が、何か出し物をしているみたいだし、前で見物している人がいて、歓迎しているのかなと思いました。

T:さあ、スクリーンに説明した写真を写します。

C:(同じ写真がスクリーンに映り)やった！

○　解説と写真とが合致したことに終始せず、写真からどんなことに気づいたのかを引き出していく。

○　実物を提示しながら解説をし、関心を高め、理解が深まるようにする。